

学生支援サミット 2021

実施報告書

三重大学 学生総合支援機構

目次

1. はじめに … p. 2

2. 学生支援サミット 2021 概要 … p. 3

- 趣旨
- 目的
- テーマ・内容
- 主催
- 日時
- 参加申込者
- 当日のプログラム

3. 当日の参加状況 … p. 5

- 学生・教員・職員の参加状況
- 当日のグループ構成

4. 当日の流れ … p. 7

- 進行スライド

5. グループ発表 … p. 10

- 各グループの発表
- 優秀グループの投票

6. 資料 … p. 26

- 学生支援サミット 2021 ポスター
- 三重大学ホームページ トピックス掲載記事

1. はじめに

三重大大学では、「学生支援サミット」と名付けたイベントを毎年開催しています。これは、今後の三重大大学の学生支援のあり方に関するビジョンを、学生・教員・職員がともに描き、共有し、それに基づいて三重大大学の今後の学生支援のあり方を検討する目的で、平成24年度より始めました。毎回、テーマを設定し、参加者はグループに分かれて意見を出し合い、それを全員で共有します。

本年度の「学生支援サミット2021」は、テーマを「with コロナ時代に求められる『人の繋がり』の形 in 三重大大学」に設定し、with コロナ時代に合わせた人と人の繋がりがどうあるべきかについて考える機会とするためにサミットを開催しました。「人の繋がり」というテーマにまつわる三重大生や教職員の困りごと・課題やその原因（要因）は何か、そして（それらを踏まえた上で）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを気軽に取れるようになるための企画や仕組みの提言について、学生と教職員が協働してディスカッションを行い、アイデアの発表を行いました。本報告書は、この活動と成果をまとめたものです。

サミットにおいて提言された、三重大大学における「人の繋がり」を促すためのアイデアを多くの方に知っていただき、学生生活環境の充実をはじめ、三重大大学の発展の寄与につながる資料としてご覧いただけることを心よりお願い申し上げます。

また最後となりますが、学生支援サミットの企画・運営に関わりご協力を頂いた皆さま、当日参加し貴重なアイデアを出して頂いた学生・教職員の皆さまに厚くお礼申し上げます。

学生総合支援機構

2. 学生支援サミット 2021 概要

○ 趣旨

年に一度、三重大大学の学生・教員・職員がともに大学をより良いものとして行くために協働して議論を行う機会として開催している。本年度は、テーマを「with コロナ時代に求められる『人の繋がり』の形 in 三重大大学」に設定し、with コロナ時代に合わせた人と人の繋がりがどうあるべきかについて考える機会としてサミットを開催した。

○ 目的

- ①withコロナ時代における感染予防対策の形、また今だからこそ必要な人と人が寄り添い繋がるためのアイデアについて、学生と教職員が主体的に検討する機会とする。
- ②三重大大学での学習や生活、大学運営がより生き生きとした望ましいものにできるよう、学生と教職員が協働する意識を育む。

○ テーマ・内容

『with コロナ時代に求められる『人の繋がり』の形 in 三重大大学』を今年度のテーマとした。まず、現在の新型コロナウイルス感染症の状況や拡大防止に関する本学の行動規範や指針等の対策、人の繋がりにつまわる現状や課題について共有する。その後、学生と教職員を組み合わせたグループに分かれ、グループディスカッションを行った。昨年度から今年度前期までのオンラインを中心とした大学生活の経験を踏まえ、①「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員の困りごとや課題は何か、②その困りごとや課題の原因(要因)は何か、③(それらを踏まえた上で)コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを気軽に取れるようになるための企画や仕組みの提言について、考えてもらう。ディスカッションの中で出た意見やアイデアはグループごとにパワーポイントにまとめ、その後各グループからのプレゼンテーション、優秀グループの投票を行った。

○ 主催

三重大大学 学生総合支援機構

○ 日時

令和3年9月29日(水) 13:00 ～ 16:00 Zoomにて開催

○ 参加申込者

学生については、各学部への参加依頼等を通して募集した結果、合計51名の参加エントリーがあった。教員については、各学部への参加依頼や学内の会議・委員会での周知、ホームページ等での企画周知を行った結果、計11名のエントリーがあった。職員につい

ては、学生支援チームより依頼を行い、計 12 名がエントリーした。

○ 当日のプログラム

13:00～13:10（10 分）	開会の挨拶 教育担当理事・学生総合支援機構長 鶴原清志
13:10～13:20（10 分）	学生支援サミットの活動内容の説明
13:20～14:30（70 分）	自己紹介・グループワーク 【グループワーク課題】 昨年度から今年度前期までのオンラインを中心とした大学生活の経験を踏まえ、①「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員の困りごとや課題は何か、②その困りごとや課題の原因（要因）は何か、③（それらを踏まえた上で）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを気軽に取れるようになるための企画や仕組みの提言についてのアイデアを考える。グループでまとめた意見やアイデアをもとにパワーポイントを作成する。
14:30～15:45（75 分）	各グループのプレゼンテーション（4、5 分×15 グループ） ＋優秀グループの投票
15:45～15:55（10 分）	総括コメント 教育担当理事・学生総合支援機構長 鶴原清志
15:55～16:00（5 分）	閉会の挨拶 学生総合支援機構副機構長 野崎哲哉

3. 当日の参加状況

○ 学生・教員・職員の参加状況

学生支援サミット当日の参加者数は、学生 52 名、教員 24 名、職員 19 名の、計 94 名であった（表 1）。参加学生の学部内訳は表 2 にまとめた。

○ 当日のグループ構成

当日は参加者の所属学部や部署等を考慮し、以下の全 15 グループを編成した。

- グループ 1：人文学部グループ①（学生 3 名、教職員 2 名）
グループ 2：人文学部グループ②（学生 3 名、教職員 2 名）
グループ 3：人文学部グループ③（学生 3 名、教職員 2 名）
グループ 4：教育学部グループ①（学生 4 名）
グループ 5：教育学部グループ②（学生 4 名、教職員 2 名）
グループ 6：教育学部グループ③（学生 3 名、教職員 3 名）
グループ 7：医学部グループ①（学生 5 名）
グループ 8：医学部グループ②（学生 4 名、教職員 2 名）
グループ 9：医学部グループ③（学生 3 名、教職員 3 名）
グループ 10：工学部グループ①（学生 4 名）
グループ 11：工学部グループ②（学生 3 名、教職員 2 名）
グループ 12：工学部グループ③（学生 4 名、教職員 2 名）
グループ 13：生物資源学部グループ①（学生 4 名）
グループ 14：生物資源学部グループ②（学生 5 名、教職員 1 名）
グループ 15：生物資源学部グループ③（学生 2 名、教職員 2 名）

表1 学生支援サミット2021参加者数

属性	参加者数
学生	51名
教員	24名
職員	19名
合計	94名

表2 参加学生の内訳

学部・研究科	参加者数
人文学部	9名
教育学部	11名
医学部	12名
工学部・工学研究科	10名
生物資源学部	9名
合計	51名

当日は以下のスライドの通りに進行を行った。



調査結果から見えてくる「人の繋がり」という課題

【文部科学省】新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査
国や学校などへの意見・要望、その他（交流機会、課外活動、相談窓口等）

友達を作る機会を少しでもいいから作ってほしい。

無難にリスクのある時期に課外活動の許可を行う必要はないと思うが、こうしたつながりの場を学生が失いに求めているということは知っておいてほしい。

学びにおいて人との交流も不可欠。オンライン・SNS上の交流のみでは不十分である。また、機材のつながりだけでなく心のつながりも重要。

孤独を感じている学生への精神的なサポートを。

調査結果から見えてくる「人の繋がり」という課題

【全国大学生生活協同組合連合会】届けよう！コロナ禍の大学生生活アンケート

学生生活は充実しているか

学年	1年	2年	3年	4年	計
充実している	40.7%	40.7%	40.7%	40.7%	40.7%
充実していない	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%

https://www.unichouse.or.jp/void/3/pdf/void_eng_2108_02.pdf

調査結果から見えてくる「人の繋がり」という課題

【全国大学生生活協同組合連合会】届けよう！コロナ禍の大学生生活アンケート

大学で友人は何人できたか（何人いるか）

学年	1年	2年	3年	4年	計
1人以上	80.7%	80.7%	80.7%	80.7%	80.7%
1人以下	19.3%	19.3%	19.3%	19.3%	19.3%

https://www.unichouse.or.jp/void/3/pdf/void_eng_2108_02.pdf

調査結果から見えてくる「人の繋がり」という課題

【全国大学生生活協同組合連合会】届けよう！コロナ禍の大学生生活アンケート

不安に思っていること

学年	1年	2年	3年	4年	計
不安に思っている	58.7%	58.7%	58.7%	58.7%	58.7%
不安に思っていない	41.3%	41.3%	41.3%	41.3%	41.3%

https://www.unichouse.or.jp/void/3/pdf/void_eng_2108_02.pdf

調査結果から見えてくる「人の繋がり」という課題

【全国大学生生活協同組合連合会】届けよう！コロナ禍の大学生生活アンケート

大学に対応を強化してほしいと思うこと

学年	1年	2年	3年	4年	計
強化してほしい	80.7%	80.7%	80.7%	80.7%	80.7%
強化しなくてもいい	19.3%	19.3%	19.3%	19.3%	19.3%

https://www.unichouse.or.jp/void/3/pdf/void_eng_2108_02.pdf

そこで…今回のグループワークの課題

しばらく続くであろうwithコロナ時代。オンライン・オフラインをうまく活用しながら人と人が繋がる方法を三重大を創発するために…

- コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員はどのように感じているだろうか
- その関わりとは何が重要（課題）になっているだろうか
- （課題の関わりとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの構築！

について、学部ごとのグループで話し合いませんか？

企画や仕組みを考える際のポイント

- 形式：対面 / オンライン / ハイブリッド
- 目的：友だち作り / 悩み相談 / 情報収集
- 実施期間：単発企画 / 常設企画（例：掲示板、オープンスペース）
- 対象：全学生 / 学生と教職員 / 学部生中心 / 新入生
- その他：効果、（特に対面実施の）注意事項 etc

オンライン交流 オンライン（サイバー）キャンパス

例：mimo

ハイブリッド企画

課題に取り組む際の留意点①

- グループは学部ごとの学生と教職員に分かれて話し合ってもらいます。
- 話し合った内容は「学生支援サミット2021」にアップされているプレゼン用のパワーポイントファイルにまとめてください。それを使いながら、後のプレゼンを行ってもらいます。

三重大の学生や教職員がオンラインや対面を柔軟に使い分けるための企画や仕組みを構築してください。

課題に取り組む際の留意点②

- まずはグループメンバーで自己紹介をしていただき、主な司会・進行役や書記役 etc. を決め、適宜プレゼン資料のファイルを調整しながら話し合ってください。グループに割り当てられた教職員の皆様には、グループワークが円滑に進むよう、ファシリテーターをお願いできますと幸いです。
- プレゼン資料フォーマットは適宜レイアウトなどアレンジしてください。また、ファイルをメンバーで共同作成する場合の解説資料もアップしてあるので、分担しながらプレゼン資料を作成する際にご活用ください。
- ご不明な点がございましたら、「ヘルプをみる」でお知らせください。
- グループワークの時間は70分と限定しましたが、議論の状況を見て適宜短縮する場合もあるかもしれません。その場合はチャットでお伝えします。

グループ構成

グループ1：人文学部グループ①
グループ2：人文学部グループ②
グループ3：人文学部グループ③
グループ4：教育学部グループ①
グループ5：教育学部グループ②
グループ6：教育学部グループ③
グループ7：医学部グループ①
グループ8：医学部グループ②
グループ9：医学部グループ③

グループ10：工学部・工学研究科グループ①
グループ11：工学部・工学研究科グループ②
グループ12：工学部・工学研究科グループ③
グループ13：生物資源学部グループ①
グループ14：生物資源学部グループ②
グループ15：生物資源学部グループ③



グループワークからプレゼンテーションの流れ

【グループワーク】(70分)

グループディスカッション（「人の繋がり」についての回り事・その原因・もっと人とつながることができたりコミュニケーションがとれる企画や仕組みの提案について議論・検討）

【グループ発表・質疑応答＆投票】(75分)

・グループの1番目（人文学部グループ①）から順番にプレゼン

＝発表時間の目安：3、4分程度

プレゼン資料を画面上共有しながら発表

・質疑応答＆投票（最も良かったと思う優秀グループを投票）

グループワーク

各グループのプレゼンテーション 質疑応答

優秀グループの投票

各グループの発表内容を見て、
最も良かったグループを2つ選んで投票してください！
（自分のグループに投票してもOK）



総括コメント

三重大学 教育担当理事 鶴原清志
学生総合支援機構 機構長

閉会の挨拶

学生総合支援機構 副機構長 野崎哲哉

多くの方にご参加いただき、
誠にありがとうございました。

各グループで作成していたプレゼン資料は、
 Moodle コースの「プレゼン資料の提出用フォルム」に各
グループがわかる形で提出ください。
 報告資料や運営用資料として有効に活用させていただきます。

5. グループ発表

○ 各グループの発表内容

【グループ1:人文学部グループ①】

現在の課題として、勉強以外のことや部活動等の情報を得ることが難しいということに焦点をあてた。オンラインの場合、(教員の目があると)形式的なやりとりだけになってしまったり、大学生活に関する情報は得られるが目的周辺の情報は得られにくいいため、様々な可能性が狭まってしまうという課題がある。情報取得のために、学生は積極的・主体的に動く必要があるがなかなか難しい。

そこで、まずはフォーマルになりがちなオンラインを、対面と同じように気軽にやりとりできるような場にする工夫が必要であると考えた。また、「余白の情報を求めて」とあるように、目的周辺に広がる興味のない情報(例:部活・ゼミ・授業・学内施設 etc.)が自動的に入ってくるようなプラットフォーム、あるいはそれらの分野に関わりのある人と気軽にやりとりができるプラットフォームやイベントを作ることを提言する。

学内定例ゼミナール2021
2021.8.29 18:13:00~18:00

人文学部グループ①
プレゼンテーション

余白の情報を求めて

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて。三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- ・勉強以外で得られる部分がほぼない
- ・部活動がかなり制限される
- ・周りの情報を得ることが難しい

【教職員】

- ・在宅のひととの連携が取りづらい
- ・(逆に主体的に動く良い機会なのではないか)
- ・オンラインでは生徒からの反応が分かりづらい

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

- ・対面とオンラインではコミュニケーションの取り方が異なる
- ・情報をくれる人と接する機会がない、受動的に情報が得られない(部活の勧誘など)
- ・目的周辺の過程。余白がないため、可能性が狭まる

→主体性、受動的に情報を得られる場を重視したい

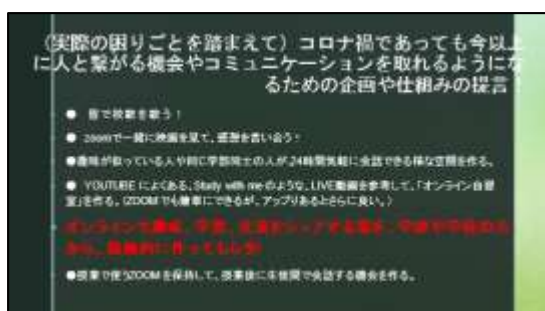
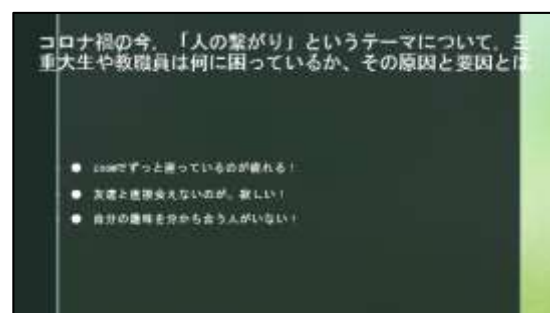
(実際の困りごとを踏まえて)コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言!

- ・フォーマルになりがちなが、オンラインを気軽に活用する
- ・部活など、興味のない情報も得られるようなシステム
- 何となく立ち寄ってたまたま望んでいない情報も得られたというようなシステム(電子辞書と辞書の違い)
- ふらっと寄って得られる情報、ワンストップ

【グループ 2: 人文学部グループ②】

現在の課題として、授業等でずっと座っていて疲れる、友だちと会えないのが寂しい（休み時間もなく話せない）、趣味の場に行けずに趣味があう人と会えないし探せない状況があるとする。

提案として、(1) 三重大生としての一体感がないことからみんなで校歌を歌う機会を作る、(2) 一緒に映画を見て感想を言い合って交流する機会、(3) オンライン自習室を作ることなどを提言する。それらが実現する場を大学や学部積極的に作ってもらいたい。また、授業後に Zoom を閉じず、先生だけが抜けて学生同士で喋れる機会を作るのはどうか。



【グループ3:人文学部グループ③】

現在の課題として、特に新入生のオンラインでつながるための準備が大変であることが挙げられ、with コロナ時代に合わせたオリエンテーションがないことも要因のように考えられる。また、軽いコミュニケーションやついで・余白のつながりが持ちにくいことも課題として挙げられ、オンライン環境下では区切りがはっきりしすぎ・偶然の出会いが生まれにくいことが要因として考えられる。

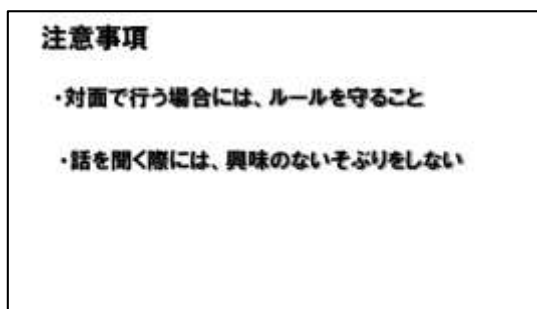
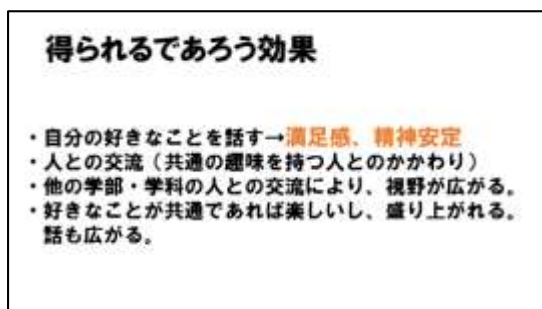
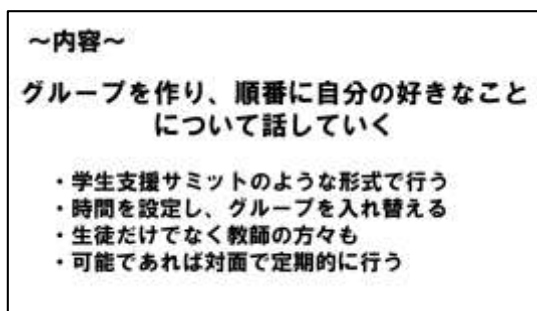
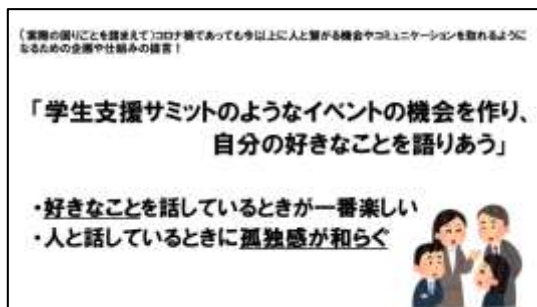
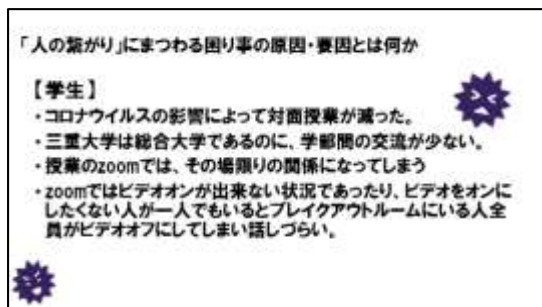
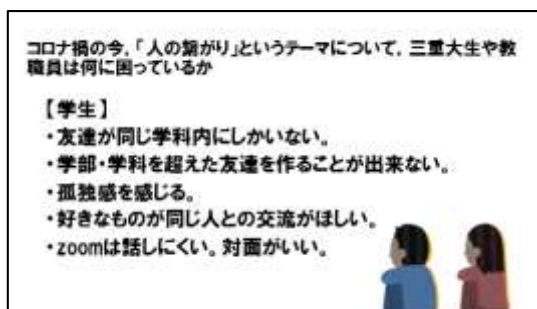
それらを解決するための提言として、まずは最初からオンラインは難しいことから、「オンラインでつながる」ための準備を対面でサポートすることが必要ではないか。また、連絡手段は分かりやすい形が望ましく、例えば振り分け設定をしっかりとした上でメールで連絡する等の形が考えられる。加えて、学生同士が自由かつ気軽につながることができる授業環境作りやオンラインキャンパスを設置することも重要ではないかと思う。

学生生活サポート2021 2021.8.29 18:13:00~18:00 人文学部グループ3 プレゼンテーション	コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか 【学生】 ・ オンラインでつながるための準備（ Moodle・Zoom）特に新入生 ・ 軽いコミュニケーション（ゼミの「ついで」など）がない ・ ゼミなどで話が発展しにくい ・ 知り合いじゃない人とつながりにくい（上級生も） 【教職員】 ・ 連絡がとりにくい（どんな方法なら確実に伝わる？） ・ 学生の反応が分かりにくい
「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か 【学生】 ・ オリエンテーションがなかった（新入生） ・ オンライン授業は時間通りすぎる・区切りがはっきりしすぎ ・ 偶然の出会いが生まれにくい 【教職員】 ・ 連絡手段がメールだけで一方的／双方向でない ・ メールが多くなると重要な情報が埋もれやすい	（実際の困りごとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！ ・ 新入生は、3日を避けて対面で「オンラインでつながる」までの準備をサポート Moodleの使い方、Zoom等の使い方、接続など ・ 新しい連絡手段は難しい メールの振り分け設定をしっかりと（ガイドンスもあり） ・ 上級生と下級生が一緒に参加する場をつくる 授業、オンラインキャンパス、サポーター バーチャル型の会議アプリの活用

【グループ 4:教育学部グループ①】

現在の課題として、特に 1,2 年生は最初から大学に来ることが少なかった。そのため、同じ学部・学科でしか友人を作る機会がなく、交流があってもその場限りのものが多く、孤独感も感じていた。オンラインツールでは不自由さもある。

そこで、自分の好きなことを語り合える機会を作ることを提言する。好きなことを話すときが楽しいし、孤独感も和らぐ。学部を越えた交流もできると良い。学生だけでなく教職員も参加する機会となったり、可能であれば対面を取り入れた継続的な形が望ましい。



【グループ5:教育学部グループ②】

現在の課題として、これまであった縦のつながりがなくなったり、教育実習の経験ができない、授業内容を自分に引き付けて考えることが難しい、教職員から見ても大学らしくない雰囲気になってしまった点が挙げられる。

提言としては、(1) これからは(ルールを守った上で)できることを増やしていったり、代替案を考えていくことが必要であること、(2) 禁止・制限ではない前向きかつ芯が通ったメッセージの工夫が必要であること、(3) みんなが一人で頑張るのではなく、「助けてもらいやすさ」を高めていくこと、その環境を大学が提供していくこと、を提言する。

学生生活サポート2021
2021.3.29 (日) 13:00~16:00

教育学部グループ2 プレゼンテーション

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、 三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- ・ イベントがなくなることによって縦のつながりがなくなる
- ・ 経験のできないことによる不安(教育実習など)
- ・ 授業が文字で見ているだけになることが多く、自分のように覚えられないイメージが持てない
- ・ 友達に質問しにくい、授業の理解がしにくい
- ・ 通学や、オンライン受講料の教室などでも感染のリスク
- ・ 先輩から話を聞ける機会を失ったほうが多い

【教職員】

- ・ 学生がいない→大学らしくない、心理的ストレス
- ・ 人との会話ができない、雑談がなくなってしまった
- ・ 学生などの周りの状況が分かりにくい
- ・ 雑談にのってもしよいかどうか分かりにくい

「人の繋がり」にまつわる困り事の 原因・要因とは何か

【学生】

- ・ オンラインのツールの多様性を知る
- ・ 機会の制限、経験できる場所がない
- ・ 機会の制限により諦めの気持ちが出てきてしまっている
- ・ 授業時間外のつながりがないこと
- ・ ICTの活用が足りないのでは

【教職員】

- ・ みんなが我慢を強いられている→ストレス
- ・ 禁止のメッセージではなく、できることのメッセージを送る必要
- ・ 学生にとって頼れる場所がどこなのかわからないこと

(実際の困りごとを踏まえて)コロナ禍であっても 今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを 取れるようになるための企画や仕組みの提言!

- ・ できることを増やしていく方向で考える→そのためには改めてルールを守る意識
- ・ 代替の案を前向きに考える(ツールをうまく活用しながら)
- ・ 応酬活動の工夫→利用者が増えるのでは
- ・ ルールなども具体的に分かりやすく、伝達して伝えてほしい。
- ・ ICTを活用した授業
- ・ PCR検査ができる環境の充実→できることが増える
- ・ 学生や教職員などへのメッセージの出し方の工夫
- ・ 頼れる場所をたくさん作る
- ・ 「助けてもらいやすさ」を高める、学習する
- ・ 大学としてやるべきことをしっかり考える
- ・ 授業内外で雑談ができる時間を確保する、ルール化する
- ・ 悩みなどを知る機会をつくる、同僚支援室など →いろんな人に知らせる

【グループ6:教育学部グループ③】

現在の課題として、周りの様子が分からない、ネット環境に左右される、家族との関わりが薄くなった、学部・学科を越えた関わりが少なくなった、学校現場での子どもたちとのかかわりにくい、教職員からも学生とコミュニケーションが取りにくい等が挙げられた。

そこで、オンライン上で『何もしないスペース』の導入を提言する。いつでも雑談できる場所としてもよいし、時に共通の目的や趣味を共有する場、情報交換ができる場所としてもよいのではないかと。様々な学部・学科の人とつながれる機会も検討すべき。また、学内で相談できる場所があることをSNSで発信することも提言したい。

学生支援センター
2020.3.29 (水) 13:00～16:00

教育学部グループ③

「オンライン上でのより良い繋がりを目指した『何もしないスペース』の導入」

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて。三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- 親友や教員等の学生の動きが知らなかったこと（自分から情報を取りに行かなければならないこと）
- 留学経験の不足
- ネット環境に左右される
- 家族との関わりが薄くなった
- 他学部、他コースの学生との関わりが少ない
- 学校現場での子ども達との関わりが持ちづらい

【教職員】

- 学生の通信環境により、オンライン上でのコミュニケーションがスムーズにいかない
- インフォーマルな関わりがしづらい
- 授業外での指導室や実習に出た際の指導が難しい
- 個人情報の取り扱いが多いため、リモートワークが難しい

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

- 関りが少なくなってしまったことへの慣れ
- 先輩・後輩の縦のつながりの薄れ
- 実習中の子ども達との関わりが制限
- コロナの感染により他者に迷惑をかけることへの心配

【教職員】

- 対面での繋がりを実施した際、万が一コロナにかかってしまった場合に、世間からの心ない声があること（ちゃんと対策をしていたとしても）
- オンラインに行き過ぎた
- オンライン授業でのオン・オフの切り替え

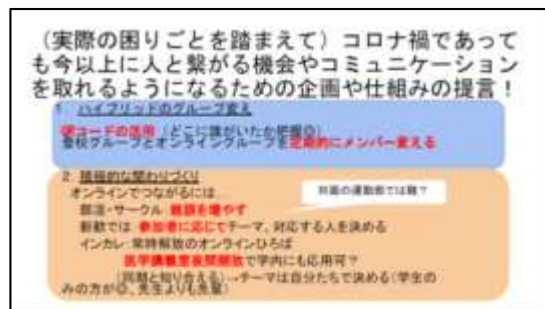
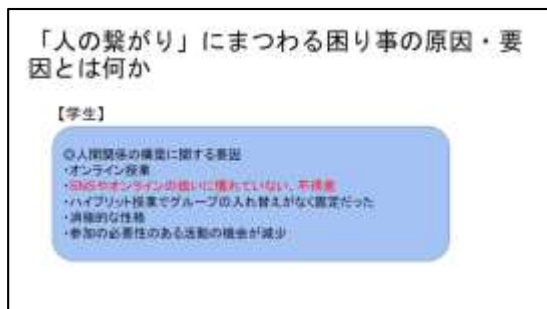
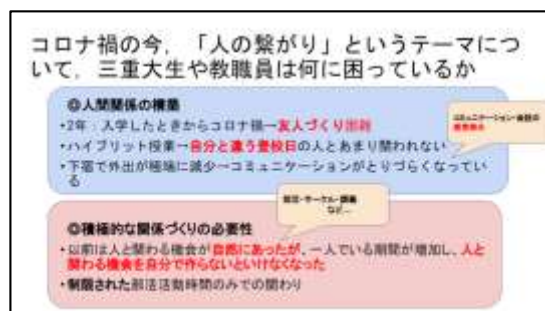
（実際の困りごとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- 授業外で、「オンライン何もしないスペース」的なものの設置
- 例）オンライン自習室
- 先輩から後輩に授業の履修等の指導
- 匿名のアドバイザー・初対面の人とも交流 ★共通の目的★共通の趣味
- いつでも雑談ができる場所
- オンラインでできる取り組みの情報を流す他コース・他学部とのつながりの検討
- 学部の授業に関しては、様々な学部と選正人数によるクラス編成をして、対面実施
- 他所属の同期との情報交換が出来る場所
- 何でも相談できる場所を気軽に紹介する→SNS（Twitter、Instagram）での発信

【グループ7:医学部グループ①】

現在の課題として、友人作りが難しかったり、登校日の違う人と関われない等の「人間関係の構築について」の課題や、制限がある中で雑談・交流が少なかったり、人と関わる機会を自分で作っていかないといけない等の「積極的な関係づくりの必要性」についての課題があるように思う。それらを生み出す要因としては、オンライン中心の環境であることやその環境に慣れていないこと、メンバーが固定されていること等が挙げられる。

提言として、まずはQRコードを書く用しながら対面グループとオンライングループを定期的にメンバーを変えることを提案したい。また、積極的な関係作りとして、オンラインでの課外活動の中で雑談する機会を増やしたり、夜間開放の可能性も含めたオンラインひろばのような場所を作ることによって、そこに学生はフラッと立ち寄ることができるし、学生主体でのやりとりが可能になると考えられる。



【グループ8:医学部グループ②】

現在の課題として、上下あるいは横のつながりの持ちにくさや学習のやりにくさ、課外活動でのやりとりの減少、教職員からしても学生や教職員同士のやりとりの難しさが挙げられた。要因としては、同時並行のやりとりができない、一部の人に負担がいく、交流の参加者が限定的、オンライン参加のハードルがあること、さらの教職員の間でルールの一が難しい等が挙げられる。

それらを踏まえた提言として、つながる機会がなぜ不足するか理由について、オンラインでの利益とコストという側面から評価し、変えるべきところを修正した改善案を作っていくことが必要であることを提案する。例えば、なぜ参加しないかの理由の一つに、参加しても反応やレスポンスがないことが挙げられ、フィードバックに対するさらなるフィードバックがあれば参加することの意義を感じやすいのではないかと考えられる。また、匿名性のある程度担保した上で、教員と学生の意見が相互に出せる場があるとよい。他方、縦のつながりを人為的に作る試み（例：学年内で班を作り、さらに縦でそれらの班をくっつける）もありではないか。

学生実習セミナー 2021
2021.3.29 (水) 13:00 ~ 16:00

医学部グループ② プレゼンテーション

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて。三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- 上下のつながりがやりにくい
- 仲のいい人以外とやり取りしない一極強のペース把握難しい
- グループ学習ができず、孤独
- 全体的な学習状況の把握の難しさ
- サークルでもやり取りの減少
- 学生と教職員で思っていることにギャップがある（学生が求めていることと先生方が考えていることなど）

【教職員】

- 食事などで仲を深めることが難しい
- 立場と指導をしないといけないので、学生とよい関係を築くのが難しい

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

- 全員参加ができず、一部の人に負担がいく
- オンラインで交流しても、参加者が限定的
- グループ内的小グループなどでの交流もやりにくい
- 対面でないで、人との交流にハードルが上がっている
- 対面に比べて、話が通じにくい
- 話し合い、雑談から発展することが少ない
- オンラインでの交流、学習に慣れていない

【教職員】

- マスクなどで表情も見づらい
- ルールや状況に応じた変更があって、難しい
- 教員同士でも意見の統一などが難しい

（実際の困りごとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- 参加することによるインセンティブが必要（講義など）
- 授業の終わりやアンケートでフィードバックする仕組み（フィードバックに対してできるだけ速くフィードバック）
- 匿名性や事務職員を介するなどして、フィードバックもよりやりやすくする
- 授業の前後に自由に話せるように（割り当てではなく、自由に選択して入れるように）
- いろんなコミュニティで交流会（自宅生、クラブなどの枠組み）

（実際の困りごとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- 教員と学生が自由に話せる場、意見が言える場、反応が見れる場（匿名性も活かして、自分に必要なことを中心に）
- 縦のつながりを人為的に作る（1~4 or 6年全員いる）
- グループ学習で交流する場所
- タウンミーティングをやるときには、自分に関係のあることを中心に、細かく分けて、議事録も付ける
- つながる機会が不足している理由をオンラインにおけるコミュニケーションのコストとベネフィットの側面から評価する必要がある

【グループ9:医学部グループ③】

現在の課題として、友達が少なく新しく友達を作る機会がないことや、友達とはほとんどがSNSでの繋がりだけであること、試験勉強などの情報交換が難しいことが学生から挙げられ、教職員からは会議や授業で雰囲気や顔色、状況がわかりにくいこと、困っている学生をどうすれば見つけれられるのか難しいことが挙げられた。

提言として、まずは授業外（グループワーク等）でコミュニケーションをとる機会（5人程度がベスト）を作ることを挙げる。また、単純に交流会を企画しても参加することが難しい印象があることから、既存の友人関係の輪を活かせる集客方法や大学側が主催する形、目的を絞った企画等の工夫を伴った交流企画の開催も提案する。実際に医学科では試験対策に困っている人が多いことから対策企画に多くの人が集まったり、他学部でも取り入れることができそうな「語る会」を開催した。また、休み時間をつながりを作るために有効活用する案や、課外活動への参加の促進も必要ではないかと考えた。

学生生活サポート2021
2021.8.29 (水) 13:00~15:00

医学部グループ③ プレゼンテーション

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- 友達が多くない、新しく友達を作る機会がない（今度も夏休みや夏合宿は少ない）
- 一学期の大半を家に過ごしている
- 友達とはほとんどがSNSでの繋がり
- 1年生：先輩にはあまり顔を合わせることがない
- 試験勉強などの情報交換が難しい

【教職員】

- 会議がwebで雰囲気がいまいち
- 学生の顔色を見えず、どういった状況なのかわかりにくい
- 困っている学生をどうすれば見つけれられるか難しい

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

- 大学に実際に行く機会が少ない（学業が忙しければ実習などで友達と会う機会も少なくなってしまう）
- SNSでの新たな友達づくりは難しい

【教職員】

- zoomでは顔出しもしないので、顔色や様子を見られない

（実際の困りごとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- 授業外「グループワークなど」で個人的にコミュニケーションをとる（個人懇談がベスト）
- 学生会などで交流会を行うと、本気度なども人々も集まりやすくなる。 ※「参加する」までが難しい
- 交流会で話しかけやすい、その輪を広げていくと人はたまたま集まるはず
- 大学側が主催してくれる人も集まりやすい
- 試験対策、資格取得（オンラインセミナー）、ゲーム（人質）など人々も集まりやすい
- 試験対策には関わっている人も多く、人も集まりやすかった
- 医学部では、1年と3年で話を合点がある（今年は他学部でも） ※他学部でも取り入れられそう
- 他A学部はプレイステーションなどを利用して人と繋がる機会を作る
- 一度だけzoom利用状況になって繋がらないといけないので難しい
- 新活動やゲームに所属することで、年々関係なく人と繋がる機会が増える

【グループ 10:工学部グループ①】

現在の課題として、課外活動にて活動が制限されていること、授業及び研究活動では学生同士の交流の機会が減少してしまったこと、直接会うことが難しいために友人ができにくい大学環境になったことが挙げられる。

それらの課題に対する提言として、規則をきちんと定めた上での課外活動の許容範囲を拡大していくこと、授業ではグループでの取り組みの機会を増やしたり、学生が各自の生活リズムに合わせて受講できるようにオンデマンド授業をうまく取り入れること、常時開放型の Zoom ミーティングを作って学生同士で交流できる場を作ること、を提案する。

学生支援ネット2021
2021.6.29 (水) 13:00~14:00

工学グループ① プレゼンテーション

安田順紀 山下達也 辻裕介 村瀬亮太郎

部活・サークル活動

- ・部活動で習得が満足に獲得できなかった
→例年大人数集めていた活動活動の制限→新設活動の許容範囲の幅を広げる
→情報獲得の場が希薄→ピア配り
- ・活動制限
→活動活動感染対策をしながらであればコロナ禍においても感染はたしてない(研究室なども同じ)
→ルールをきちんと守って対面授業などをどんどん行うべき
→マスクを着用して喋ったりする分にはよっぽど問題ないのでは
→食事や飲食等必須

授業体制

- ・就学内容の低下→質疑応答等の減少
→リアルタイム授業は質疑等の場
- ・オンライン授業→講義(教授と一対一関係性)
- ・授業時間内の交流の場減少→人との繋がり減少
→グループでの取り組みの強化
- ・学生同士交流減少→講義時間は学生間での学び合い
- ・収入の減少→アルバイトの減少、自費時間の拘束
→オンデマンド授業に

研究室内・外

- ・研究室内
研究室の先輩に研究内容について相談し早く進めたい
→研究室で会う機会が少ない
→研究室用のいつでも繋がるフリーzoomルームを作る
- ・研究室外
他の研究室の友達と話す機会が減ってつまらない
→集まって話す機会がない
→他研究室の人とも繋がるフリーzoomルームを作る

友達作りの機会の場

- ・友達ができにくい環境
→直接コンタクトする機会が少ない、周りと協力して何かをする機会が少ない
→少人数でもいいから機会を作る、勉強以外で何かグループで活動する時間を作る

【グループ 11:工学部グループ②】

現状の課題として、学生からはマスクで表情が見えにくい・人間関係が減った・海外での発表機会がない等が、教職員からは（学生の）顔を覚えにくい・研究以外のコミュニケーションや踏み込んだ繋がりができない・日常会話での情報共有が減った等が挙げられた。

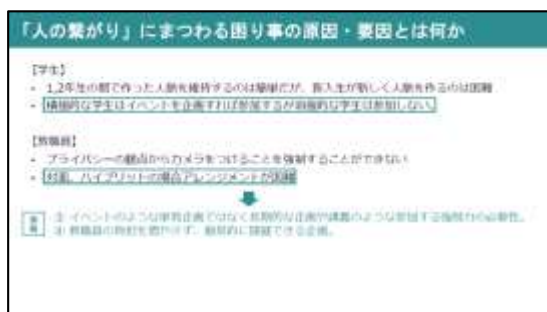
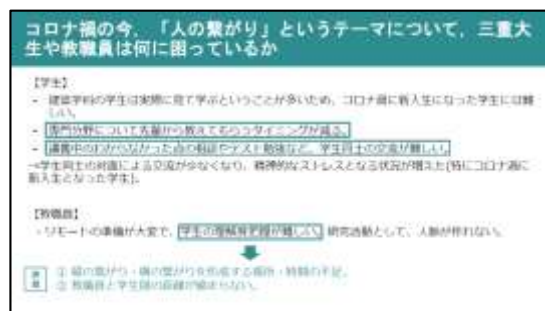
提言として、特に支援が必要な新一年生にチューター（上級生）をつける制度の導入、共感的な雰囲気を促進するためにオンライン会議ではマスクを外す、交流の機会としての町屋海岸の清掃活動レクリエーションの3点を提案する。

学生生活サポート2021 2021.8.29 (水) 13:00～18:00 工学部グループ② プレゼンテーション	コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか 【学生】 ・ マスクで表情が見えにくい ・ 人間関係が減った（アルバイトの減少） ・ 海外（現地）での発表機会がない 【教職員】 ・ 顔を覚えにくい。研究以外のコミュニケーション（お酒） ・ 踏み込んだ繋がりができない ・ 日常会話（雑談）での情報共有が減った
「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か 【学生】 ・ 対面が減った ・ 共感が少ない（表情が見れない） 【教職員】 ・ 偶発の出会いがない（雑談の機会） ・ オンラインでは、目を見て話すことが難しい	（実際の困りごとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！ ・ 新一年生にチューター（上級生）をつける制度 ・ オンライン会議ではマスクを外す ・ 町屋海岸の清掃活動としてレクリエーション
新一年生にチューター（上級生）をつける制度 ・ 新一年生1人1人にチューター（上級生）をつけることで悩みを気軽に相談できて、新入生の孤独感をなくすることができる。 ・ 履修登録やMoodleの使い方なども先輩から学ぶことができる。 ・ 絆の繋がりの強化 ・ 上級生の責任感や教える力等の成長を促せる。 ・ コロナ後も有効！！	オンライン会議ではマスクを外す ・ 聞き手側の圧迫感を減らせる ・ 表情を眺むことができる。共感しやすい
町屋海岸の清掃活動としてレクリエーション ・ 環境保全もしつつ、学生間での交流も行うことができる。 ・ 海岸で行うため、風通しも良く密にもなりにくい。感染しにくい	

【グループ 12:工学部グループ③】

現在の課題として、①縦の繋がり・横の繋がりを形成する場所・時間の不足、②教職員と学生間の距離が縮まらない、③イベントのような単発企画ではなく長期的な企画や講義のような参加する強制力の必要性、④教職員の負担を増やさず、簡易的に開催できる企画が求められる、の4つが考えられる。

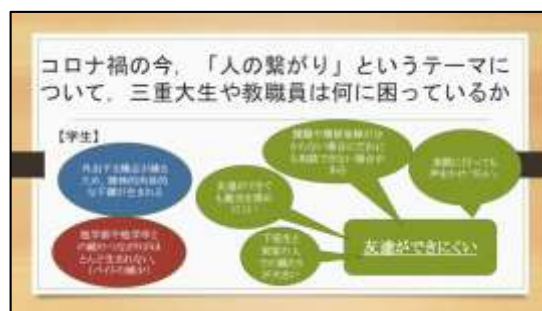
そこで、(1) オンライン上でのプラットフォームを設立（教職員が責任者となり、学生を主体に学年、学科別に定期開催（①③④に対応する提言））、(2) YouTube を用いた教職員のインタビュー（学生同士の会話のタネとなり、学生から見た教職員の解像度を上げる（②に対応する提言））、(3) 講演会による学外との繋がりを広げる（学科別に絞ると専門的なゲストを呼びやすく、就職活動にも繋がる（①③に対応する提言））の3つを提案する。それらの企画を統合し、コロナ収束後も見据えつつ、学内の繋がりを強化しながら、それを徐々に学外に広げていく動きが今後必要であると考えられる。



【グループ 13:生物資源学部グループ①】

現在の課題として、一番大きかったのが「友達ができにくい」ことだった。関係のきっかけを作る機会がなかったり、親交を深めにくかったり誰にも相談できない状況だった。また、外出の機会が減ったため心身ともに不調がうまれる可能性が高くなったり、学部・学科・上下関係を越えた人の繋がりも希薄だった。それらを生み出した要因はやはり新型コロナウイルスの感染拡大であり、それに伴って友だちを作る機会がなくなったり、知合いがいない状況からスタートすることになったり、相談できる人・頼れる人ができなかった。また、SNS を使える人は友達ができやすいが、SNS を使えない人はその機会もなかったように思う。

そこで、まずは感染対策をしっかりとした上で、実習等の実際に会う機会を作ることを提言したい。また、自発的・意欲的に取り組めるディスカッション式のプログラムが増えると、繋がりもできやすくなることが期待される。ただし、そういう場に苦手さを感じる学生もいることから、もう一工夫が必要である。そこで、三重大生が開発した Mieet を活用したり、マルチプレイゲームを活用した企画もあると、共通の趣味等で繋がる可能性も広がる。以上から、授業での交流等の強制的に参加する企画から SNS 等を活用した自主的に参加する企画まで、幅広いニーズに対応した企画の実施が望ましいという結論に至った。

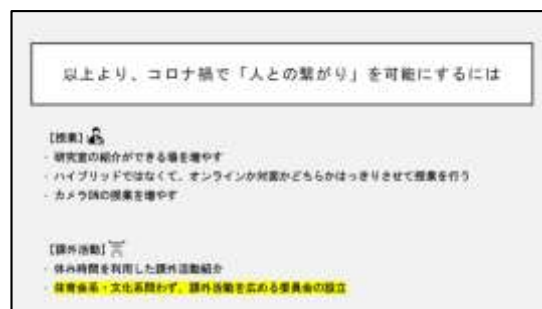
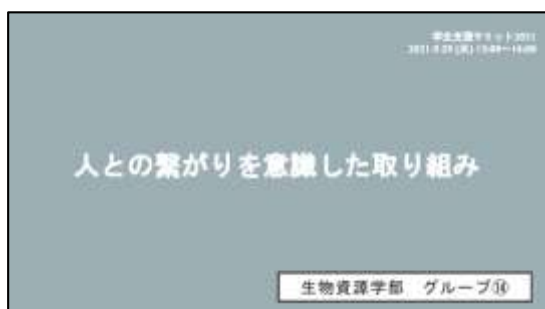


- コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組み
- ・実習などの実習にあって取り組む機会を作る。(感染リスク?)
 - ・自発的に意欲的に取り組むディスカッション式のプログラムを増やす(知合いがしやすい(参加のハードルが高い。対面?オンライン?))
 - ・Mieet(三重大限定の友達作りアプリ)を推奨する。(ハードルが高い)
 - ・マルチゲームを開催する。→エイベックス、人狼、麻雀など
 - ・一時的に参加させる企画または常設企画から会費でやる企画が理想。

【グループ 14:生物資源学部グループ②】

現在の課題として、学生からはオンラインで話すことには限界があることや、関係作りにとって重要な部活やサークルの情報が全く得られず発信にも難しさがあったこと、ハイブリッド・対面で受けたとしても、教員はカメラに話すことから対面での実感を感じにくいことが挙げられた。教職員からも、対面ほどの授業感を出すのが難しいことや生徒とのつながりを持てているか不安があること、学生に確認が取りづらい等の課題が挙げられた。それらの課題を生み出す要因としては、課外活動の入りが分からない等の情報の少なさや友人関係を築く機会や場が限られていること、オンラインの楽しさに学生側が慣れてしまったことが学生から挙げられ、一方の教職員からはハイブリッドにしても授業に来ない学生がいたり、オンラインゆえに学生の名前と顔が覚えにくい等の要因が挙げられた。

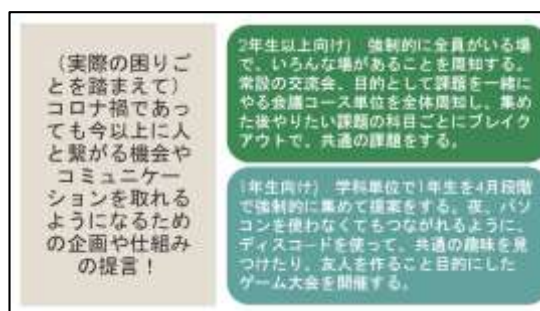
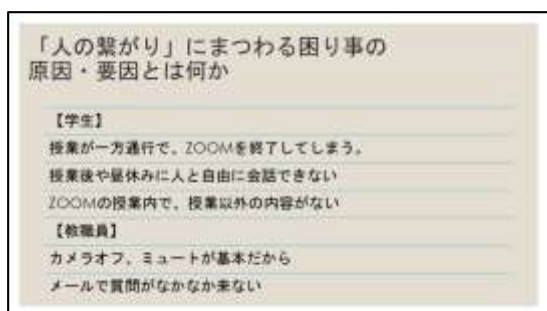
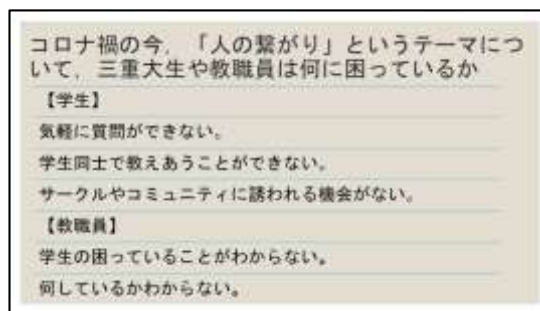
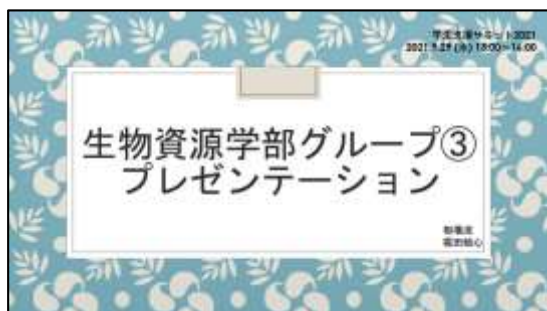
以上の現状を踏まえ、授業面ではまず研究室配属前の学年に対して研究室の紹介ができる場を増やすこと、ハイブリッドよりもオンラインか対面かをもっとはっきりさせた授業運営、なるべくカメラを ON にする授業を増やすことを提言したい。また、課外活動の面では、休み時間を使った課外活動団体の紹介の機会を作ったり、課外活動をもっと広めるための委員会のような組織の設立を提言する。



【グループ 15:生物資源学部グループ③】

現在の課題として、学生からは授業で気軽に質問ができないことや学生同士で教えあうことができないこと、サークルやコミュニティに誘われる機会がないことが挙げられた。それらの課題の要因として、授業が一方通行で、授業が終わるとすぐに Zoom を終了してしまうことや授業時間外に周りの人と自由に会話できないこと、Zoom の授業では授業以外の内容がない（交流企画の案内とかがない）ことが考えられた。教職員からは、学生の困っていることがわからないし、授業中に学生がどのように授業を受け、何しているか、課題にどう取り組んでいるのかが分からない等の課題が挙げられ、その要因として、カメラオフ・ミュートが基本だから相手の様子が分からないことや学生側からメールで質問がなかなか来ないことが考察された。

提言としては、ほとんど繋がりのない1年生向けの企画とある程度の繋がりがあることが想定される2年生以上向けに分けてアイデアを提案する。まず、2年生以上向けの企画として、授業等の機会を使って常設の交流会（例：課題を一緒にやる交流会）を周知し、課題・科目ごとにブレイクアウトルームを設定し、共通の課題に取り組んだり交流する企画の開催がよいのではないかな。一方の1年生向けの企画としては、学科単位で1年生を早い時期に集めて交流企画（例：パソコンを使わなくてもつながれるようにディスコード等のアプリを適宜使いながら、共通の趣味を見つけて交流する企画、あるいは友人を作ることなどを目的にしたゲーム大会）の周知・開催をすれば、人との繋がりができやすくなるのではないかと考えられる。



6. 優秀グループの投票

「with コロナ時代に求められる『人の繋がり』の形 in 三重大学」をテーマに、①「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員の困りごとや課題は何か、②その困りごとや課題の原因（要因）は何か、③（それらを踏まえた上で）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを気軽に取れるようになるための企画や仕組みの提言について、学生・教員・職員がディスカッションを行い検討した。

全 15 グループが提言に関するプレゼンテーションを行い、どのグループのアイデアが最も優秀であったかについて、参加した学生・教員・職員に投票を行った。

各自最も良かったと思うグループ 2 つを選ぶ投票を行った結果、工学部グループ②が得票数 24（得票率 29.6%）となり、優秀グループ 1 位に選出された。次いで、工学部グループ③が得票数 21（得票率 25.9%）で 2 位に、教育学部グループ①が得票数 18（得票率 22.2%）で 3 位となった（表 3、図 1）。

表3 各グループの得票数及び得票率

	得票数	得票率
人文学部グループ①	17	21.0%
人文学部グループ②	16	19.8%
人文学部グループ③	2	2.5%
教育学部グループ①	18	22.2%
教育学部グループ②	11	13.6%
教育学部グループ③	5	6.2%
医学部グループ①	8	9.9%
医学部グループ②	4	4.9%
医学部グループ③	6	7.4%
工学部グループ①	7	8.6%
工学部グループ②	24	29.6%
工学部グループ③	21	25.9%
生物資源学部グループ①	4	4.9%
生物資源学部グループ②	12	14.8%
生物資源学部グループ③	8	9.9%

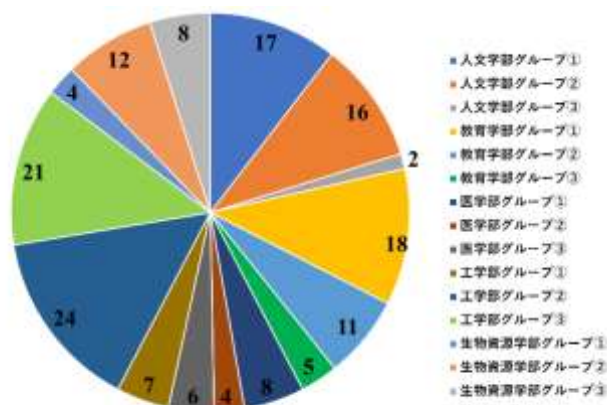


図1 各グループの得票結果

優秀グループの提言まとめ

1 位:工学部グループ②【得票数 24(得票率 29.6%)】

(1) 新一年生にチューター（上級生）をつける制度

- ・新一年生が悩みを気軽に相談でき、孤独感をなくすることができる
- ・履修登録や Moodle の使い方なども先輩から学ぶことができる
- ・縦の繋がり強化
- ・上級生の責任感や教える力等の成長を促せる
- ・コロナ後も有効

- (2) オンライン会議ではマスクを外す
 - ー・聞き手側の圧迫感を減らせる
 - ・表情を読むことができる、共感しやすい
- (3) 町屋海岸の清掃活動としてのレクリエーション
 - ー・環境保全もしつつ、学生間での交流も行うことができる
 - ・海岸で行うため、風通しも良く密にもなりにくいため、感染しにくい

2位:工学部グループ③【得票数 21(得票率 25.9%)】

- (1) オンライン上でのプラットフォームを設立
 - ー教職員が責任者となって、学生を主体に学年、学科別に定期開催する
- (2) YouTube を用いた教職員のインタビュー
 - ー学生同士の会話のタネとなり、学生から見た教職員の解像度を上げる
- (3) 講演会による学外との繋がりを広げる
 - ー学科別に絞ると専門的なゲストを呼びやすく、就職活動にも繋がる

3位:教育学部グループ①【得票数 18(得票率 22.2%)】

- (1) (学生支援サミットのようなイベントの機会を作り) 自分の好きなことを話そう！
 - ーグループを作り、順番に自分の好きなことについて話していく（グループを入れ替える・学生だけでなく教員も参加・可能であれば対面で定期的で開催）
 - ー得られるであろう効果…
 - ・自分の好きなことを話す→満足感、精神安定
 - ・人との交流（共通の趣味を持つ人とのかかわり）
 - ・他の学部・学科の人との交流により、視野が広がる
 - ・好きなことが共通であれば楽しいし、盛り上がる・話も広がる

6. 資料

- 学生支援サミット 2021 ポスター
- 三重大学ホームページ トピックス掲載記事



学生支援サミット2021

withコロナ時代に求められる『人の繋がり』の形
in三重大学

日時

2021年9月29日(水) 13:00~16:00

開催方法

Zoomによるオンライン開催

新型コロナウイルスの感染拡大が続く昨今。大学における多くの活動がオンラインで行われ、対面する際もソーシャルディスタンス等を意識した対人関係が求められる。現場からは「相談する人がいない」「友だちができない」「その場限りの関係になってしまう」「学生の様子が分からない」等の『人の繋がり』が持ちにくい状況がうかがわれる声をよく耳にする。

本サミットでは、感染予防対策や他者との関わりに関する現状と課題を共有し、それを踏まえた上での新たな『人の繋がり』の形、つまり学生同士・学生と教職員が気軽にかつ今以上に繋がるためのアイデア・仕組みについてディスカッションしていきます。

参加者
募集

参加をご希望される場合は、
右記のQRコード先の参加申込フォームからお申込みください。
※教員から参加依頼を受けた方は、
こちらでお申込いただく必要はございません。



お問い合わせ・お申込み

三重大学 学生総合支援機構(担当:風間)

TEL

059-231-6262

MAIL

Junki.Kazama@mie-u.ac.jp

主催: 三重大学 学生総合支援機構・学生活動センター

学生支援サミット2021 ～withコロナ時代に求められる「人の繋がり」の形 in 三重大学～

2021年10月08日

9月29日(水)、「学生支援サミット2021 ～with コロナ時代に求められる「人の繋がり」の形 in 三重大学～」をオンライン開催しました。

本サミットは、学生・教員・職員が協働しながらディスカッションを行い、より良い三重大学となるよう考えていく貴重な機会として、学生総合支援機構主催で毎年開催されているイベントです。本年度は「with コロナ時代に求められる「人の繋がり」の形 in 三重大学」をテーマに、学生・教職員合わせて94名が参加し、学生総合支援機構障がい学生支援センターの風間惇希講師の進行のもとサミットが行われました。



冒頭、学生総合支援機構長の鶴原清志教育担当理事から「本日はいろいろな形でお話ただいて、グループの中での提案や提言が一つでも何かの形になればと思いますので、ぜひ活発なご意見等をお寄せいただければと思います。」と開会の挨拶がありました。

続いて、風間惇希講師より今回のテーマである「with コロナ時代に求められる「人の繋がり」の形 in 三重大学」についての説明がありました。

学生は学部ごとに教職員を含めたグループに分かれ、グループワークを行いました。

その後、各グループのプレゼンテーションが行われ、コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、学生や教職員は何に困っているのか、その困りごとの要因（原因）、更にコロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言について発表されました。

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- ・ マスクで表情が見えにくい
- ・ 人間関係が減った（アルバイトの減少）
- ・ 海外（現地）での発表機会がない

【教職員】

- ・ 顔を覚えにくい、研究以外のコミュニケーション（お通）
- ・ 踏み込んだ繋がりができない
- ・ 日常会話（雑談）での情報共有が減った

（実際の困りごとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- ・ **新一年生にチューター（上級生）をつける制度**
- ・ **オンライン会議ではマスクを外す**
- ・ **町屋海岸の清掃活動としてレクリエーション**

発表後、鶴原清志教育担当理事から「昨年度と比べて、新型コロナウイルスの感染対策が把握できてきたことを受け、'何々の行動をしてはいけない'というマイナスのメッセージだけでなく、プラスのメッセージも出せるように考えていきたい。また、学生の皆さんはSNS を駆使しているように見えても、実はコミュニケーションに大変苦労していることが把握できたので、大学として、話合いのスペースを作るとか、上下の繋がり、学部間の繋がりなど、何か提供できるようにしていきたい。」

と総括がありました。

最後に、学生総合支援機構副機構長の野崎哲哉教育（学生総合支援）担当副学長から「学生支援サミットの目的は、三重大で生じているいろいろな課題を取り上げ、学生だけでなく教職員も一緒になって考え、問題を顕在化させ今後の解決策を見つけていくというものであり、今回いただいたさまざまな意見を今後の学生支援の取組みに生かしていきたい。特に、対面に近い形での自由な話合いができるオンラインの場を設けることが重要であると感じているため、大学としてこのような場を工夫して設けていきたい。」

と閉会の挨拶がありました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、今年度も学生支援サミットはオンライン上での開催となりましたが、学生・教職員の積極的なディスカッションが行われ、大変有意義なサミットとなりました。

編集：三重大学 学生総合支援機構

